



全国検定振興機構主催講演会 近未来の検定試験とは？

株式会社クイック教育システムズ

中村 一樹

自己紹介

中村 一樹 (なかむら いつき)

1972年 京都府生まれ(38歳)
 東京大学工学部卒
 500以上の資格試験に合格
 200冊以上の書籍を執筆

【会社】 <http://www.quick-edu.co.jp/>

【個人】 <http://www.shikakuou.com/mt/>

1995年以降、資格・検定試験の活用法を企業・大学はもちろん、受験生に指導することを主な仕事とする。





近未来の検定試験とは？

日本の検定試験の現状

近年の検定試験の動向①

- 1 検定試験の廃止が急増中**
⇒2010年だけで100以上の試験が休・廃止
- 2 全体的に受験者減の傾向**
⇒景気の影響？効果の影響？
- 3 受験者による検定試験の選別**
⇒実益を求める傾向が強い
- 4 事業者による不祥事・出題ミス**
⇒他の検定事業者への影響も
- 5 文科省「検定試験ガイドライン」**
⇒検定事業者で新たな対応が始まる

近年の検定試験の動向②

- 6 **検定試験の参入障壁の低下**
⇒低価格での実施が可能に
- 7 **検定試験実施の目的があいまいに**
⇒長続きしない原因？
- 8 **受験者層の拡大**
⇒子ども、高齢者、外国人など
- 9 **検定試験のマンネリ化**
⇒実施団体側にも改革が必要？
- 10 **事業仕分けの対象にも**
⇒国家資格を中心に国会からのメスが入る



QUICK
クイック



近未来の検定試験とは？

検定試験の歴史・背景

資格試験のブーム

| | 名称 | 年 | 特徴 |
|---|------------|----------|-------------------------|
| 1 | 第一次資格試験ブーム | 昭和20年代 | 戦後の改革・法律改正 |
| 2 | 第二次資格試験ブーム | 昭和40年代 | 高度経済成長後の日本 受験指導スクール |
| 3 | 第三次資格試験ブーム | 1990年代後半 | インターネットの普及 パソコン関連の検定 |
| 4 | 第四次資格試験ブーム | 2000年代後半 | ご当地検定・ネット検定 |

資格・検定ブームの牽引役

1 景気の動向

検定の種類に応じて、景気によって受験者が増えるものと減るものがある。

2 技術革新

新たな技術の発達はそれに関連する新たな資格のきっかけとなる。

3 社会の変動

高齢化・少子化・個人情報保護・地球環境の保全などの社会的影響が大きい。

4 女性の趣向

女性の方が時代の変化に応じて目指すべき資格・検定試験が変化してきた歴史的経緯がある。



QUICK
クイック



近未来の検定試験とは？

検定試験の受験者ニーズ

受験者のニーズ(学生編)

1 進学・就職に有利に働くようにする

検定に合格したらどのように入試や就職の際に有利になるのか、具体的な情報公開をする。

2 取得のメリット・級別の目標を明らかにする

検定に合格することのその他のメリット、何級まで合格することが目標なのかを具体的に示す。

3 関連資格との関係を明らかにする

類似の資格・検定試験との違いや関連性、ダブルライセンスの相乗効果などを示す。

4 効果的な学習の方法の明示

合格のための学習方法、問題集などの紹介。どれくらい勉強すれば合格できるのかなどの情報。

受験者のニーズ(社会人編)

1 就職・昇給に有利に働くようにする

せっかく合格しても、その検定合格が評価されなければ意味がない。評価をしてもらうための事業者による働きかけが必要。

2 受験者層・合格者層の情報公開

どのような人が受験しているのか、合格した人たちはどのような人たちなのかをデータとして示す。

3 合格後の活かし方の明示

合格しただけでは資格・検定は生きてこない。その具体的な活用方法について、実践的に情報を例示する。

4 受験料の適正化(値下げ)

受験料で不当に高いものがあったり、合格後に別途費用のかかるものが多い。適正な価格設定が必要。



QUICK
クイック



近未来の検定試験とは？

今後の検定試験の在り方

今後の検定試験の在り方①

1 継続した公正な試験運営

検定試験の継続実施は最低限の要素。公正な運営を確保し、それを社会に情報公開することが信頼確保に繋がる。

2 検定事業者による経営努力

検定事業が収益事業である以上、事業者側によるさらなる経営努力が必要。中小企業の経営者的な視点が必要。

3 合格者が賞賛される社会の形成

検定試験合格者に対する学校・企業の評価を高める活動にもっと力を入れるべき。

4 受験料の適正化（値下げ）

受験料の根拠について情報公開するなどの手法が必要。

今後の検定試験の在り方②

5 さらに試験情報の公開

せっかく合格しても、その検定合格が評価されなければ意味がない。評価をしてもらうための事業者による働きかけが必要。

6 学校教育との連携

中高・大学の教科に直接関連ある検定試験については、学校教育の現場との連携を図ることが必要。

7 時代に要請に応じた試験内容の変化

合格者として必要なレベルを維持するためには、試験が社会のニーズに応じて定期的に変化していかなければならない。

8 社会からの適正な評価

社会に受けいれられてこそ、良い検定試験といえる。社会とともに成長していくための施策が必要。



近未来の検定試験とは？

未来の検定試験への提言

検定事業者に望みたいこと①

1 検定試験の理念をはっきりと

何のための検定試験なのか、これをあいまいにしている事業者も昨今少なくない。他の検定との違いも鮮明に。

2 従業員研修の充実

アルバイトの試験監督員も含めて、従業員全体の質の向上を図る。また事業者の方針などを徹底させる。

3 さらなる情報公開

検定を受験する側に必要な情報だけでなく、それを評価する側にも情報を開示する。

4 検定試験の質の向上

実施回による合格率の安定化、出題する問題の実務化、検定利用実績の向上。

検定事業者に望みたいこと②

5 検定の普及活動に対する努力

受検者側に対する普及活動、評価側に対する普及活動に対して別々の行動をする。

6 事業者同士の交流の活発化

互いのwin-win体制を作ること。合同研究会、分野ごとの分科会などの活動が必要。

7 国民の学習意欲をより向上させる

検定の受験人口を増やす努力をしたい。国民の生涯学習や個別学習につながる検定試験を実施してほしい。



近未来の検定試験とは？

日本の検定試験の課題

新しい検定試験の課題

- 1 受験方式（会場式・通信式・ネット式）
- 2 告知の方法・普及活動は？
- 3 試験委員・出題者は？
- 4 年間実施回数は？実施時期は？
- 5 受験料は？
- 6 公式テキスト・対策講座は？
- 7 受験資格・実技試験は？
- 8 資格の更新制度は？

検定試験に対するcheck

- 1 さまざまな知識・技能をテストで出題しているか？
- 2 100問100点満点で70点程度が合格点となっているか？
- 3 級別に試験を実施しているか？
- 4 検定に関しては択一方式以外の出題についても検討しているか？
- 5 本人確認を実施しているか？
- 6 上位資格への意欲をかき立てるものとなっているか？

今後の検定試験の課題

- 1 「検定協会」という看板の活用法
- 2 検定試験の裾野の広げ方
- 3 合格者に対する付加価値
- 4 マスコミ戦略を含めた宣伝方法
- 5 検定事業者同士の交流
- 6 その他